

## 景観アドバイザーからのご意見



石川 初氏

慶應義塾大学 環境情報学部教授  
調布市景観審議会委員  
調布市景観アドバイザー

- 駅周辺の景観について4年間検討を進めてきたなかで、景観の観点として要望等の意見（検討会でのアイデアなど）についても掲載して良いのではないかと感じている。
- 構成については、読みやすさを考え、表現方法や順番などを含めて検討が必要かもしれない。
- 中学生世代をターゲットというのは、内容を維持しつつも、わかりやすくつくるということはおもしろいと思う。
- 景観の検討では課題の話が中心となりがちだが、本検討会では「市内景観の良いところを引き出そう」ということを、基本的なスタンスとして進めてきたところは良かったと思っている。

## 冊子作成の過程で見つけた昭和30～40年代の市内の駅まわりの風景を紹介します。



仙川駅  
昭和40（1965）年頃



つつじヶ丘駅  
昭和42（1967）年頃



国領駅  
昭和34年（1959）年頃



布田駅  
昭和49（1974）年頃



西調布駅  
昭和42（1967）年頃



京王多摩川駅  
昭和34年（1959）年頃

※写真は調布市郷土博物館提供

## 次回市民検討会のお知らせ

第4回検討会では、調布市の景観まちづくりや模型を活用した表現方法について、意見交換を行います。

### 令和5年度第4回市民検討会

日にち：令和6年2月9日（金）  
時間：午後7時から午後8時40分  
場所：文化会館たづくり10階会議室

市民委員は随時募集しています！  
ご興味のある方は都市計画課までご連絡ください！



調布市では、景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせしていきます。

発行：調布市都市整備部 都市計画課 開発景観係

Tel：042-481-7442 Fax：042-481-6800 Email：tikubetu@city.chofu.lg.jp

# ちょうふ景観だより

令和6年1月26日発行

第61号

## 「駅」 + 「駅周辺」



「駅まわり」？

「駅」と「まわり」？

「駅のまわり」？

## 調布の景観／駅の魅力冊子を作成しよう

「調布市景観まちづくり市民検討会」では、『駅の景観』をテーマに令和元年度から令和4年度まで、様々な視点で市内9駅について調査・検討を行ってきました。令和5年度はその成果を1つの冊子にまとめることとしました。

本号では、冊子作成にあたってどのような編集会議が行われたかを紹介します。

## 検討テーマ「駅の景観」についてまとめよう！

### 1. 冊子の表紙・タイトルやとりまとめ方などについて

冊子作成にあたり、どのような表紙・タイトルにするか、どのような内容をどのような人に伝えたいかなどについて編集会議で検討を行いました。

表紙・タイトルについて

#### 主な意見

- 以前、市民検討会で作成した冊子は「調布の景観／国分寺崖線編」というタイトルだった。市民検討会が関わった冊子として「調布の景観／〇〇〇〇編」といった継続性のあるタイトルが良いと思う。
- 「駅の景観」として調査を始めたが、実際は駅舎ではなく駅周辺の景観についての調査となった。冊子の中身を考えても「駅の景観」がタイトルではおかしいと思う。『駅とまわり』、『駅のまわり』、『駅まわり』どの言葉が伝わりやすいか考えたい。
- 「駅まわりの魅力」から、調布らしさを感じられる新しい視点が上げられた。駅周辺の整備や京王線の地下化に伴い見つけられた3つのテーマを表紙に組み込みたい。

とりまとめ方について

- 時系列で編集するのではなく、景観を主題に検討会が出した「調布らしさ」を前段に掲載して欲しい。
- ただ市民検討会の活動報告として作ったということではなく、多くの人に見てもらえるような冊子にしたい。
- 現況の魅力はもちろんだが、市民の意見として展望のようなものも伝えたい。
- 調布駅の移り変わりが地図だけ見ても解りにくい、できれば古い写真などを掲載して変化が見て取れるようにしたい。

#### 編集結果

- 今後も研究発表の形で冊子を作るうえでは、「調布の景観」のタイトルは継続する。
- どの表現からも言葉の広がりを感じられるタイトルだが、「駅まわり」を題材テーマに調査してきたこともあり、『駅まわり』をタイトルにする。
- 3つのテーマを表紙にすることは賛成！「見下ろす」は「見おろす」に、「空と夕日」、「人がつくる」の文字や色、フォントを見やすい文字にする。

- 「調布らしさを感じられる3つの視点」を前段に、以降、「市内9駅の現況と調布駅の移り変わり」、駅の景観を考える上での知識として「駅まわりの景観とは」、メンバーが調査した「市内9駅の魅力ある景観」の順に掲載する。
- 多くの人に見ていただけるよう、中学生（13歳ぐらい）が読んで解るよう編集を心掛ける。
- 市の中心拠点である調布駅の駅まわりで意見集約した、「活かしていくべき風景」「新たに必要風景」を掲載する。
- 郷土博物館から市内9駅の古い写真を提供いただき、冊子に掲載する。

#### 主な意見

- 景観まちづくり市民検討会の活動の成果が、少しでも多くの市民に知られるような仕掛け、仕組みがあると面白いと思う。
- 市内の駅は近年建て替えられているもの多く、その中でも木を感じられるものが多く見受けられる。国立競技場なども木が使用されており、市内の駅でもそのような流行（素材・デザイン）を感じる。

その他

#### 編集結果

- 慶應義塾大学石川研究室で作成いただいている、調布市の模型を使用して、景観まちづくり市民検討会の活動報告を行いたい。また、前回作成した「調布の景観／国分寺崖線編」同様に教育委員会校長会に冊子は配布を予定している。
- 市内の駅（つつじが丘、国領、布田、西調布）でも木材ではないが木目調のデザインを使用している駅舎もあり、駅の魅力でその一部を紹介している。

### 2. 冊子に掲載する主な内容

検討会及び編集会議での議論を踏まえ決定した冊子への掲載内容の一部を紹介します。

#### ◎ 調布らしさを感じられる3つの視点



#### ◎ 駅まわりの景観とは



#### ◎ 市内9駅の現況と調布駅の移り変わり



※右側上下段の写真は調布市郷土博物館提供

#### ◎ 市内9駅の魅力ある景観



上記の内容をもとに、冊子のとりまとめを行います。また、駅まわりの景観を考える上で、市民検討会で検証した情報についても掲載し、発行については令和5年度中を予定しています。